

2月9日：旧正月明けに株価は上昇へ

世界的な株式市場の強い上昇に伴い、ベトナムの証券市場はテト（旧正月）休暇明けに上昇すると予想されている（アナリスト）

（2月10日から始まる）テト休暇前の最終取引日に、ホーチミン市場の主要指標であるVN指数は2.93%高の1,114.93ポイントで引けた。

この日の売買高は5億1,980万株で、売買代金は7兆3,000億ドン（3億1,780万米ドル）だった。

「VN指数は朝方から後場引けにかけ、じわじわ上昇し1,100ポイントの節目を超えた。外国人投資家は両市場（ホーチミン、ハノイ市場）で売り越した。さらに値上がり銘柄数が値下がり銘柄数を上回り、良好な地合いになったが、前日と比べ出来高は少なかった」（BIDV証券）

「我々の見方では、VN指数は旧正月明けに最高値を試しに値を戻す可能性がある」（BIDV証券）

旧正月明けの2週間で金融銀行株の上昇により、マーケットは通常ほとんど上昇すると多くの年の市場サイクルは示す（MB証券（MBS）の上席顧客対応専門家のグエン・デュイ・ディン氏）

「新型コロナウイルスのため、今年は少し違っていた」（同氏）

「旧正月前の出来高の減少は妥当である」（同氏）

「旧正月前に投資家は資金を引き上げたいと考えており、新型コロナは取引面でマーケットを減速させた」（同氏）

実際に、過去20年間でテト休暇明けの5日間の取引でVN指数の上昇率は約65%を占めており、下落率より高い。

「過去20年間で、テト休暇明けの5日間の取引でVN指数が上昇した場合は全体の約65%を占めており、下落率より高いのだ」（同氏）

「投資家は2020年にこのことを頻繁に経験したので新型コロナの動きは市場に影響を及ぼす主な要因ではない。パンデミック中に、複数の大きな下落があったにもかかわらず、マーケットでは依然として大幅な上昇が記録された」（メイバンクキムエンベトナム証券会社の投資顧問部長のファン・ドゥン・カーン氏）

「外国人投資家による強い売り越しの通り、機関投資家はマーケットを支えようと大きな変化を持たなかった。マーケットを主に下支えしたのは個人投資家だった」（同氏）

「今年1月に、個人投資家によって開設された新規口座数は過去最高水準に達した。だが、2月に出来高は継続して減少し、F0の投資家の資金流入が維持できないことが分かり、それが投資家を心配させた」（同氏）

カイン氏によれば、マーケットは心配しているが、依然として強気のサインがある。さらに、ハイズオン省全体での15日間のソーシャルディスタンスのニュースと2月16日からのハノイの路上レストラン、コーヒーショップの閉鎖したことで、2020年4月のようにインターネット取引を刺激するかもしれないと考える投資家もいる。

「1,075ポイント付近が良い下値支持線であり、VN指数は引き続き1,175~1,200ポイントを目指す可能性がある」（SSI証券（SSI））

「だが、同指数が本格的に上昇基調に戻るためには出来高を再度改善する必要がある」（SSI証券（SSI））

「マーケットは旧正月明けの初めの取引では、その勢いを継続する可能性がある」（Yuanta証券ベトナム会社）

「同時にマーケットでは株を買い集める時期に入り、それによって出来高が低いセクターでは差別化が起きるだろう」（Yuanta証券ベトナム会社）

同社は引き続き調整を利用し、投資家自身の投資比率を増やし、新たな買い建てをするよう短期投資家に推奨した。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。